

ムギ類うどんこ病情報第1号

令和3年4月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

複数地域のコムギほ場でうどんこ病の発生を確認

1 ムギ類うどんこ病の発生状況

3月11日に西尾市で、3月17日に安城市及び豊田市のコムギほ場で、は種日が早いほ場を中心にうどんこ病の発生を確認しました。農業改良普及課では**3月上旬に安城市、豊田市で発生を確認**しています。また、3月下旬に県内20ほ場で行った巡回調査において、本病の発病株を確認しました。過去10年で3月に発生を確認したのは、本病が多発した平成28年以来であり、**例年に比べ早い初発**となっています。

2 コムギの生育状況

麦生育診断情報（3月16日現在、農総試作物研究部作物研究室）によれば、「きぬあかり」「ゆめあかり」ともに平年に比較して生育が早まっており、出穂期も平年比で「きぬあかり」は4～12日早く、「ゆめあかり」は4～9日早いと予測されています。

3 うどんこ病の生態と被害状況

うどんこ病の分生子は、風で飛散して付近に伝染します。この病斑は下葉から発生し、しだいに上位葉に進展します。発病に適した環境下では、病斑の拡大や上位葉などへの進展が急激となります。穂及び止め葉を含む上位2葉における多発は、千粒重の低下を招きます。春が温暖多雨で、早くから繁茂した年には発病が多くなります。窒素肥料の過多、不適切な追肥なども多発の原因となります。

4 防除対策

発生が多く、上位葉まで進展が見られる場合には、下表を参考に防除を行きましょう。うどんこ病に適用がある薬剤の多くは、ムギ類赤かび病にも適用があります。今作すでに使用した薬剤は避け、FRACコードを考慮し、作用機構が異なる薬剤を選定しましょう。

表 小麦におけるうどんこ病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
麦類	パンチョTF顆粒水和剤	収穫14日前まで	2回以内	散布	U6, 3
	ワークアップフロアブル※	収穫7日前まで	3回以内	散布 無人航空機による散布	3
	カナメフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	7
小麦	トップジンM水和剤※	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	シルバキュアフロアブル※	収穫7日前まで	2回以内	散布 無人航空機による散布	3
	チルト乳剤25※	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
	プロパティフロアブル	収穫3日前まで	3回以内	散布	50

※：ムギ類赤かび病にも適用がある薬剤

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01_2020.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。